

日本の田舎は宝の山

―農村資源を活かすのは、都市と農村をつなぐ起業家の育成―

NPO法人えがおつなげて 代表理事 ● 曾根原 久司

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。11月25日(水)～27日(金)に山梨県北杜市で開催された実践塾の内容について、主任講師の曾根原久司氏にご報告いただいた。

(地域支援課)

活用されていない農村資源

私は、日本の田舎の資源は、宝だと思っっている。この思いは、農村に暮らす人なら、誰にも通じる思いだと思う。この日本の田舎の宝の資源が上手に活用されたなら、10兆円ぐらゐの国内産業が創出されるだろうと思っっている。なぜなら、それぐらゐの宝の資源の蓄積があるからだ。世界の先進国の中で、第2位の森林率を誇る森林資源。40万畝にもなる耕作放棄地。地球10周分に匹敵する農業用水路。四季折々の美しい農村の自然景観。農村地域の暮らしの中で育まれた豊かな食文化等々。みな、すばらしい宝の資源だ。ただ、残念なことには、これらの資源が有効に活

用されていない。しかし、もしもこれらの農村の資源に価値を与えられ、新しい商品となり有効に活用されたならば、私は、10兆円の地域産業が創出されると思っっている。また、森林、農地、自然環境などを活かす10兆円規模の産業が創出されることで、100万人の雇用創出が可能だと考えている。

欠けている「起業家」の視点

私自身、そんな考え方のもと、耕作放棄地や未活用の間伐材などを活用して、さまざまな事業を開発してきた。耕作放棄地の棚田を再生し、復活した棚田で栽培した酒米で純米酒を造る。未活用の間伐材を使って住宅の建材などを作る。耕作放棄地

の再生からコメ作りといった一連の農作業を企業の社員研修として行う取り組みなどである。地方創生実践塾では、そのような活動の取り組みを、NPO法人えがおつなげてと連携して活動している三菱地所、マーケティングフォースジャパン(日清オイログループ)、金精軒から発表していただいた。

そんな活動の中で浮かんできた疑問は、農村には活用されていない有用な資源が多く存在するにもかかわらず、なぜ活用されないケースが増えてしまったのかという点だ。その背景はまず、農村の少子高齢化、担い手不足だろう。しかし、減少したとはいえ地域に担い手もいるはずだ。ではなぜ、その担い手が農村の資源を「活用する」担い手となりえなかったのか。

私は、「起業家」としての視点が、農村に欠如していたからだと考えている。活用されていない農村の資源を、「有用な資源」として捉え、新たな価値を加えて事業を創出できるような起業家としての視点だ。耕作放棄地や森林資源、空き家など活用されていないわが国の農村資源のほく大な量を考える時、起業家としての人材の創出が大いに期待されるところである。起業家の活躍によって、これらの農村資源が活用され、それによって新たな雇用機会につながるからである。

グループワークでビジネスモデルづくりを体験

その農村起業家における大切なポイントが、都市と農村をつなぐという視点だ。農村にある耕作放棄地や森林資源、空き家などの資源に、都市のニーズをつなげて価値を創出するという視点である。都市には、食と農、自然体験、田舎暮らし、健康や癒しといった農村に向かうニーズがある。これらの都市のニーズと農村の資源をつなげてあげるのだ。これによって農村資源に新たな価値が生まれる。この両者のさまざまな組み合わせによって、さまざまなバリエーションの事業のアイデアが浮かんでくる。さらにこの事業のアイデアを、以下の5つのPの視点で、ビ



主任講師・曾根原氏による講義

ビジネスモデルという事業の形を作るのである。

プロダクツ Products: 製品・サービス

プライス Price: 価格

プレイス Place: 販路・流通

プロモーション Promotion: 販

促・PR

パーソン Person: 顧客、事業

体制

今回行われた地方創生実践塾では、この農村資源と都市のニーズをつなぐビジネスモデルづくりを、参加者のみなさんにグループワークを行っていただき、実際にビジネスモデルづくりを体験していただいた。参加者のみなさんには、この考え方の有効性についてきつと実感いただ



グループワーク 発表

けたと思う。

農村資源を活用すれば
10兆円の産業創出も

現在、わが国の農村では担い手の減少傾向が著しいが、私はその延長上で、今から10年後には、実質的な農業従事者はおそらく半減するだろうと推測している。一般的には減少するから大変だと思われるが、私はむしろチャンスと捉えている。

今後10年の間に、農業などの1次産業分野に新たなプレーヤーが次々に参入し、産業構造が大きく転換していくだろうと推測している。同様に、林業にも大きな可能性が秘められている。世界の先進国の中で、第2位の森林率を誇る森林資源を保有するか



NPO 法人えがおつなげて古民家事務所での集合写真

らだ。しかも、戦後植林してから60年ほど経過している木が多く、全国で伐採期を迎えている。さらに漁業も含めて、日本の1次産業には産業構造を転換し、新しい産業を生み出す余地が大きく残されている。私は以前より、日本の農村資源を活用すれば、10兆円の産業が創出できると主張してきた。農村資源を活用した10兆円産業の内訳は、下記の通りだ。

- ① 6次産業化 (3兆円)
- ② 農村での観光交流 (2兆円)
- ③ 森林資源の林業、建築、不動産等への活用 (2兆円)
- ④ 農村にある自然エネルギー活用

(2兆円)
⑤ 教育、健康、IT、福祉、メディア等のソフト産業と農村資源活用連携 (1兆円)

この5分野が、わが国の農村の資源特性から考えて、有望な産業分野と考えている。私は、以前よりこのことを主張してきたが、いよいよ、政府の地方創生の政策においても、農林漁業を成長産業として捉え、「6次産業」を10兆円産業に設定する政策目標も閣議決定された。みなさん、日本各地の農村資源の宝を活かして、新たな地域産業を各地で創造していこうではありませんか。

地方創生実践塾 (山梨県北杜市) の概要

テーマ: 限界集落のおこしかた
~企業との連携による農山村地域活性化の手法を学ぶ~

第1日目 11月25日 (水)

- プログラム① 研修概要説明・課題提起
主任講師 NPO 法人えがおつなげて代表理事 曾根原 久司氏
- プログラム② 「企業ファーム事例紹介」
特別講師
三菱地所株式会社 環境・CSR 推進部副長 鈴木 康之氏
株式会社マーケティングフォースジャパン
代表取締役社長 横山 秀樹氏
金精軒製菓株式会社 代表取締役 小野 光一氏
- プログラム③ 一日のまとめ、翌日のプログラム説明
主任講師 曾根原 久司氏

第2日目 11月26日 (木)

- プログラム④ 講義 主任講師 曾根原 久司氏
- プログラム⑤ フィールドワーク 増富地区 企業ファーム視察
- プログラム⑥ フィールドワーク えがおつなげて古民家事務所
- プログラム⑦ グループワーク 「都市と農村をつなぐプランニング」

第3日目 11月27日 (金)

- プログラム⑧ 講義 主任講師 曾根原 久司氏
- プログラム⑨ グループワーク 発表準備
- プログラム⑩ グループワーク 発表・総括